

る QA1 の感染性はニワトリやアヒルに比べて高いことが示されました。ウズラ間、ニワトリ間およびそれら2種の間での QA1 の伝播性を調べたところ、ウズラ間では直接・飛沫感染が成立するものの、ニワトリ間での直接・間接触による感染およびウズラ・ニワトリ間での間接触による感染は成立しませんでした。

これらのウイルスの特性から QA1-6 株の感染経路を推察すると、QA1-6 株の共通祖先であるウイルスが 2002 年 3 月から 2004 年 7 月頃に侵入し、ウズラの間で循環していた可能性が示唆されました。

強化モニタリングにより、家禽の症状が顕著に現れないこれらのウイルスが発見できたことから、本発生規模は拡大せず、ウイルスが強毒化する以前に摘発することができました。今後のインフルエンザ発生を制御する上で、強化モニタリングは大変重要な手段であることが裏付けられました。

掲載誌 Uchida Y. et al., Vet. Microbiol. 147(1-2), 2011, 1-10.
この研究内容は農研機構ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/niah/2010/niah10-08.html>

TOPICS

サマーサイエンスキャンプ 2011 の開催

本年の動物衛生研究所（つくば）サマーサイエンスキャンプを、平成 23 年 7 月 27 日（水）から 29 日（金）の 3 日間開催しました。このキャンプは、(独) 科学技術振興機構主催、参加機関共催で行われる「高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム」で、動衛研としては 14 回目を数えます。今年も 3 名の責任者と総勢 17 名の研究者が講師を担当し、以下の講義・実習を行いました。今年のプログラムは次のとおりです。

初日：開講式、業務説明、講義実習「マウスの体の観察と遺伝子解析技術の基礎」、交流会

二日目：講義実習「家畜の臨床検査、生化学検査」、「動物のインフルエンザに関するセミナー」

三日目：講義実習「初日講義・実習の結果解析および解説」、「プリオン病セミナー」、発表、閉講式

今年は、プリオン病セミナーのほか、動物のインフルエンザに関するセミナーも実施しました。例年のとおり盛りだくさんの内容なうえ、セ

ミナーや実習では活発に質問が出て、事務局では予定時間におさまるか懸念しながらの進行となりましたが全員が無事すべての内容を修了することができ、最終日の発表では、実習への感動、貴重な体験となった同じ夢を持つ仲間や研究者との交流についてたくさんの感想が述べられました。アドバイザーの先生も含め閉講式の後も名残を惜しみつつ帰途につく 8 名の高校生達でした。

(情報広報課)

